

教員の指導力を高める校務分掌の工夫(小学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
高松市立 女木小学校	<p><b>教員の指導力を高める校務分掌を工夫する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から学校評価委員会を計画的に実施する。</li> <li>児童・保護者・教員へのアンケート結果から、次年度への緊急に解決すべき諸課題を重点的に明らかにする。</li> <li>学校全体のこと、一人一人の教員の専門・得意分野の力量発揮を観点にした改善計画を提案する。</li> <li>年度当初に校務分掌と主な学校行事等をリンクさせ、一人一人の校務分掌を明確化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発見に有効で、次年度の改善点を重点化することが極小規模校では重要である。</li> <li>保護者からのアンケート結果に対応し次年度の具体的な改善策と教員への過度の負担・多忙感のバランスも難しい。</li> <li>主な学校行事等が学校教育目標・学校課題と結びつき、役割分担も明確化される。</li> </ul>
高松市立 木太南小学校	<p><b>教員の指導力を高める校務分掌を工夫する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌の担当や主任を、前年度の踏襲や経験年数に従うのではなく、分掌の経験調査や、希望調査を行い、可能な限り未経験者や若手にする。</li> <li>主任と部員とのバランスをとり、若手とベテランの組み合わせを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい提案が期待でき、活性化が図れると考える。また、これからの学校教育を担う人材育成にもなると思われる。</li> </ul>
高松市立 木太北部小学校	<p><b>教職員の力量を発揮させ、組織の活性化を図るための自己点検・自己評価を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営サイクルを見つめ、学期ごとの評価を明確な視点のもとで行ない、スモールステップでの評価改善、実践のサイクルを重視する。</li> <li>自らの評価を元に、学年団、分掌グループでの協議を経て、全校でのフリートーキングにより、問題の共有化・焦点化を図る。</li> <li>加除式ファイルの教育計画の差し替えにより、共通行動を可能にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さなことから改善の視点を見つけて積極的に提案できる職員が出てきた。</li> <li>若年研修など、前年度の成果をきちんと受け止め、発展的に継続し、問題点を明確に洗い出すようになった。</li> <li>年度当初の提案時から編集計画に沿った起案をし、各自が差し替えをすることによって、省力化が図られた。</li> </ul>
東かがわ市立 相生小学校	<p><b>プロジェクト制を導入し、そのメンバーが校務分掌の枠を越えて協力しあい、教育目標達成への参画意識を高め、活躍できる場の設定を工夫している。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会やくすのきフェスティバル実行委員会等。</li> <li>教職員全員に校務分掌によるチャレンジシート(目標管理)を作成し、自分の取り組むべき課題や達成率等を明確にするとともに責任感を持たせている。年度末には、成果や課題をプレゼンテーションしあい共通認識の場としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマにそって幅広く考える力や学校運営の参画意識が育ってきている。</li> <li>限られたメンバーなので、自分の校務分掌や他の推進委員会などが重複することがあり時間の確保等の配慮が必要である。</li> <li>自分の取り組む課題がはっきりとし、年間を通して意欲的に取り組める。</li> <li>学校課題と全職員のテーマとの調整をする話し合いの場(時間)が必要。</li> </ul>
東かがわ市立 本町小学校	<p><b>責任の所在を明確化する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>責任の所在を明確にして決定し、教育評価を行った。</li> </ul> <p><b>意欲を優先する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望を優先しつつ、意欲と結果責任の視点から、組織を編成した。</li> </ul> <p><b>教職員を育てる視点から分掌を決める。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員を育てる視点から担当分掌を決定し、思い切って若年層にも主任を任命した。</li> </ul> <p><b>学級経営の充実の視点から分掌を決める。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営の充実の視点から担当分掌を決定し、校務分掌と学級担任の職務内容の連動を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職務に対する責任の自覚(結果責任)と意欲が芽生え、意欲に満ちて職責を果たそうとしている。</li> <li>意欲が空回りしないように、その都度指導する必要がある。正しい判断が、学校経営の視点に立っているのか、等の視点から指導・助言している。</li> </ul>
坂出市立 岩黒小学校	<p><b>一人一人の力量向上を常にめざして校務分掌や担任を決定し、学校運営の活性化を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手や意欲ある未経験者を起用して、新しい発想と活力ある運営をめざす。</li> <li>校内提案文書の起案経路を、教務 教頭 校長とし、教務の指導力、起案力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者が積極的に取り組み、新鮮な視点が加味されることで校務の活性化につながった。</li> <li>提案文書を多数の目でチェックできる。従来よりも工夫したプラスの提案や工夫を加えるよう常に呼びかけている。</li> </ul>
普通寺市立 与北小学校	<p><b>教職員の校務分掌を明確化する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌事務の軽重の均一化を図り、機能的な分掌組織になっているか、学年度末に全教職員で評価・検証しながら次年度計画を推進する。</li> </ul> <p><b>学校経営の活性化を図るために、教員の力量向上を考えて分掌担当を決定する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌の担当や主任を、前年度の踏襲という考え方だけでなく、可能な限り未経験者に経験してもらい活性化を図る。</li> <li>多数の分掌には複数教員を配置し、経験者と未経験者の連携を図り将来的な活性化を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部には仕事の加重負担になっている場合があるが、分掌事務の均一化を図るために、その都度検証しながら協力体制を組んでいる。</li> <li>主任層の育成や校務の活性化のために担当者を考えて配置し、指導やアドバイスできる教員の育成や雰囲気づくりができる。</li> </ul>

教員の指導力を高める校務分掌の工夫(小学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
飯山町立 飯山北小学校	<p><b>一人一人の力が発揮できる場を確保する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任一人で校務にあたるのではなく、複数の教員が協力・分担して校務を遂行できる組織作りをする。</li> <li>教務部 現教部</li> <li>・その他の各分掌においては、複数の担当者配置の場合、仕事の内容を明確にした上で、きちんと分担し、各自の責任範囲を決めて、仕事の軽重の偏りがないようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に提案する前に、相談し練ることができる。</li> <li>・主任ばかりに仕事が集中せずみんなで取り組むという意識ができた。</li> </ul>
多度津町立 白方小学校	<p><b>教職員一人一人の校務分掌を明確化する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌担当の仕事内容や年間の活動計画の入った分掌担当表を作成する。</li> <li>・校内提案文書の起案経路を教務 教頭 校長とし、教務を中心に各主任の指導力の向上を目指す。</li> <li>・力量向上を常に考え、その職員の能力や技能を最大限に生かせる分掌を担当させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌担当の仕事内容が明確になり、仕事の見通しが立てられ、担当意識の高揚や効率化が図られるようになった。</li> <li>・少人数のため、一人何役も分掌担当をしているが、重要分掌については、一人一役で責任を持って取り組ませるよう配慮する。</li> <li>・適材適所の配置を心がけ、職員のやる気や新しい企画、適切な処理が見られた。</li> <li>・校務分掌の縦、横の連携や協力体制を図りながら、学校全体として効率的で動く体制づくりをどう組織化していくか。</li> </ul>
仲南町立 仲南北小学校	<p><b>教職員一人一人の校務分掌の明確化と説明責任を自覚する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会や学期末に評価・検証しながら推進する。</li> <li>・分掌担当者の力量向上を図るため、分掌担当者 教務 教頭 校長の起案経路を明確にする。</li> <li>・香小研生徒指導部会の研究指定を受けたのを機に、全教員を2部会に分けてその研究推進にあっている。</li> <li>・現職教育(水・6)の時間に全体会・分科会を金曜日の放課後に分科会をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の教育活動に対して細い配慮が見られるようになりつつある。</li> <li>・起案の提出が遅れないように配慮している。</li> <li>・全員がどちらかの部会に所属しているので、共通理解が図りやすい。</li> </ul>
高瀬町立 麻小学校	<p><b>教職員一人一人の校務分掌を名簿の一覧にして明確にし、分掌事務の軽重が分かりやすくして計画する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌の担当や主任を前年度の踏襲ではなく、一人一人の能力や分掌事務の軽重を考慮するとともに、可能な限り未経験者や若手にし、校内の活性化を図る機会とする。</li> <li>・新任者の赴任に合わせ、新任者研修担当を新設し、現教主任と協力して、校内研修計画にも入れて全教職員で取り組み、新任者の育成に務める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の分掌事務の軽重に対して配慮して担当を計画的に決めることができ、教職員の理解も得やすかった。</li> <li>・年間計画作成に関して、新しい計画が提案され、活性化につながっている。</li> <li>・分掌などの校務を通して教職員の資質をいっそう向上させたいと考えている。</li> <li>・新任者を指導することで、教職員の仕事への意欲が向上してきている。</li> </ul>
豊中町立 上高野小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書を活用するとともに、本への興味・関心を高めるために、担当者だけでなく非常勤講師の図書館教育支援者と連携を図っていくなど、複数で課題に取り組んでいく。</li> <li>・教員の指導力を高める校務分掌の工夫として、校内提案文書を「プラス1」「チェンジ1」「マイナス1」の基本理念で立案し、提案していくよう考える機会を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせなどの場がこれまで少なかったが、子どもは好んでいることから積極的に場を設定していくことで、読書活動の日常化に結んでいこうとしている。</li> <li>・マンネリ化しつつある校内の諸活動が活性化することにつながるとともに、学校経営への参画意識を高めることにつながると考えられる。</li> </ul>

教員の指導力を高める校務分掌の工夫(中学校)

学校名	具体的な取組	成果や課題
坂出市立 岩黒中学校	<p><b>一人一人の力量向上を常にめざして校務分掌や担任を決定し、学校運営の活性化を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手や意欲ある未経験者を起用して、新しい発想と活力ある運営をめざす。</li> <li>・校内提案文書の起案経路を、教務 教頭 校長とし、教務の指導力、起案力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者が積極的に取り組み、新鮮な視点が加味されることで校務の活性化につながった。</li> <li>・提案文書を多数の目でチェックできる。従来よりも工夫したプラスの提案や工夫を加えるよう常に呼びかけている。</li> </ul>
善通寺市立 東中学校	<p><b>組織の活性化と教員の指導力を高める工夫を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌ごとに数値目標を設定し、学期ごとに自己診断・評価を行う。</li> <li>・その到達度について、全教職員が共通理解し、課題について話し合う。必要に応じて、管理職が指導を行う。</li> <li>・同時に、到達度を「東中白書」という形式でまとめ、保護者等に情報公開していく。</li> <li>・教職員の職務への取り組みについて、不十分な点を明確にしたり、具体的な改善点を指導したりすることで、各自の指導力を高めていく。</li> </ul> <p><b>生徒評価や外部評価の導入と校務の見なおしを行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価や行事評価の結果をふまえて、教育活動を見直している。</li> <li>・保護者参加の行事の時に、アンケートを実施して、広く評価を求めている。同時に、教育活動を行う上でのボランティアを募集し、人材バンクとして活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の課題が明確となり、数値目標の達成度によって、何に、どの程度、努力すればよいかを確認できる。その結果、職務に対する意欲化が図られる。同時に、職務への取り組み状況・成果が、全教職員で共有できる。</li> <li>・生徒の実態や保護者の願いに沿った教育活動が可能となる。</li> <li>・保護者ボランティアの導入により、特色ある教育活動ができるとともに、学家連携がより深まっている。</li> </ul>